

＜英国栈橋調査の余録＞ ハドリアヌスの長城 (Wall)

2015 年調査 (執筆担当 布施谷 寛)

1987 年世界遺産に登録されたが、2005 年に「ローマ帝国の国境線」に名称変更してリース (ドイツ) を追加している。ローマ帝国が、AD2 世紀当時スコットランドを根拠地としていたケルト人対策として築造したもので、ローマ帝国の最先端の前線であった。皇帝就



任後、国境線を順次視察していたハドリアヌス帝は拡張を続けるローマ帝国の衰退の兆しを嗅ぎ取り、これ以上版図を拓げない意思表示として築造を命じた、という説もある (NHK BS スペシャル「ローマ皇帝の歩いた道」)。イギリス本島北部の最狭部を縦断し、完成当初の延長 118km、1.5km 毎に監視所、6km 毎に要塞を設けていた。

今回視察したのは Housesteads Fort and Museum、長城延長上の要塞の一つで上物は完全に消失しているが、基礎だけは昔の儘に残っている。そのなかには、ローマではポピュラーな、個室ではなくコミュニケーションの場であった公衆トイレ (水洗) とされる遺跡も含まれている。砦といっても長期にわたり 500 名程の兵士が常駐していたため、遺跡全体は、生活を支えるローマの小都市そのものであったことが伺える。城壁は高さ 4~5m、幅 3m であったと記録されているが、現存する石垣は高さ 1~2m 弱で簡単に上に上がることができ、世界遺産といいながら、砦跡も含めどこでも自由に登って歩いたりできる。石垣が小さくなっているのは、周辺の羊などの放牧地の区切りの石垣のほとんどは長城に使われていた石を持っていったから、という説を唱える団員もいたが、砦へ行くにも羊の糞を踏まないように気に掛けながら 10 分ほど斜面を登らなければならなかったほどで (この点では、一部の不評をかったが)、一帯はほとんどが放牧地であり、区切りの石垣は縦横に



張り巡らされていて、その延長は長城より遙かに長く、需給バランスからみて？のつく説である。長城と石垣は遠目にはまったく区別が付かず、また、あちらこちらに築かれているので、実に紛らわしい。あるガイドブックには石垣を長城と勘違いして写真を撮る人が多い、と注意書きがある（写真参照、長城と石垣、手前から遙か奥まで延びているのが長城、左右に分岐しているのがただの石垣）。イングランドとスコットランドの境界地帯として森と草地の丘がひたすら広がっており、4世紀ローマがこの地を放棄した後も、17世紀まで、この長城はイングランドとスコットランドを分かつ役割を担い続けることになる。

<完>